

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190502138		
法人名	医療法人 重仁会		
事業所名	グループホームレガロ西岡		
所在地	札幌市豊平区西岡4条10丁目3番35号		
自己評価作成日	平成30年9月22日	評価結果市町村受理日	平成30年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成30年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様や家族様との関わり方に力を入れています。入居者様とは、午前、午後と一緒にお茶を飲む時間をつくり、その際の会話を大事にしています。行事への参加(お手伝い等)や、運営推進会議への多くの参加の促しや、御面会の際には、必ず近況報告を行うなど努力をしています。8月の、レガロ西岡感謝祭(バーベキュー)では、家族様から「本当に楽しかった、感動しました」とのお言葉を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市豊平区西岡の水源通り面に面した商店街に位置し、バス停から徒歩3分にある2階建て2ユニットのグループホームである。隣に洋菓子店などの店舗があり、利便性のよい地区である。運営母体は、医療法人で、地域医療に長く貢献しており、地域では欠かせない病院を中心とした法人グループである。事業所は法人母体の病院と24時間体制の医療連携を構築しており、適切な医療を受けられるよう支援している。また、隣接して同法人の住宅型有料老人ホームがあり、緊急時や災害対策等には協力体制を敷いている。当事業所は、平成30年3月1日に開設したばかりだが、利用者が地元出身が多い為、家族や友人・知人等の訪問がほぼ毎日あり、今年8月に事業所主催で開催した感謝祭には、家族や地域の方が40~50人位参加して盛大な催しとなり、地域の一員として既に認識されている。事業所の理念は「心に寄り添い真心を大切にします」とし、利用者に寄り添うケアは、家族から感謝の声も多く、認知症介護の事業所としてこれから期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果			
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の正面に、理念を掲げて毎朝見るようにして、実践に繋げるように指導しています。	事業所の理念は、玄関に掲示し、職員を始め利用者や家族にも周知するよう努めている。また、ユニット会議で理念を唱和して、職員間で共有し実践につなげている。	事業所の理念を事業所内に掲示し、また、ユニット会議で唱和するなどして周知し共有しているが、掲示はリビングなどにも増やし、ユニット会議では、理念の振り返りも行い職員間で更に共有することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員さんや、地主の方との繋がりや、近隣の店舗へ散歩かたがたの買い物を支援したり、隣の洋菓子店で誕生ケーキを用意していただくなどの交流をしています。	日常的に近隣の商店に買い物など利用しており、オーナー始め地域の方との交流がある。事業所主催の感謝祭には、家族や地域の方など50名程参加するなど大好評の交流会であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の病院付き添いや、買い物支援などを通して、認知症の人の理解をしていただけるように努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	レガロ側の報告に終わらず、必ず、参加者の皆様からの意見や感想を伺うようにしています。意見をサービス向上に活かすことは、今後努力をしていきます。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や地域の方、家族、民生委員、オーナーなどが参加して、定期的開催し、運営状況の報告や意見交換などを行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度改正や、計画作成で分からないことなどの質問や、地域包括の職員には、運営推進会議に必ず参加して頂いています。	運営推進会議では、地域包括支援センター担当者が参加しており、情報交換や意見交換を行うなど協力関係を築くよう取り組んでいる。市や区の管理者会議などへはこれから参加して連携するよう進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、今後、身体拘束委員会で検討します。	身体拘束をしないケアについては、指針やマニュアルを整備して、法人内で全体研修会が年1回あり、事業所内では、身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回ケア会議で検討して学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の身体拘束委員会や、毎月のユニット会議で話し合い、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、成年後見人制度を利用されている入居者様があります。又、OffJtでの研修の機会を設けており、理解を深める努力をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解していただけるように努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回(偶数月)運営推進会議を開催して、意見を聞くようにしています。又、参加できなかった家族様等には、会議録を送っています。	ホーム便りを2ヶ月に1回発行して、家族へ運営状況の報告を行っている。利用者が地元出身が多い為、家族の来訪もほぼ毎日、意見や要望は来訪時に聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットで会議を開催して、意見を聞き、提案等を反映させる努力をしています。	ユニット会議は、毎月1回行っており、個人面談は、職員個々により異なるが、開設間もない為、3ヶ月に1回又は月に1回実施して、職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度や、資格手当のアップなどに努めていますが、まだまだ十分でないと思われ、今後の課題です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修の機会を確保していますが、まだまだ足りていないと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内ではネットワークができていますが、法人外では取り組みが足りていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との面談の中で、話を傾聴し、聞き出すことで、良い関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との面談の中で、今までの苦労等を傾聴して関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に、環境に慣れることができるように努力しています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを、スタッフと一緒にできるようにしています。キッチンでの仕事、掃除、洗濯物たたみ、買い物等を一緒に行うことで関係を築いていると思います。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大きな行事の際のお手伝いの協力や、スタッフが同行できない際の受診のお願いをするようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通われていたデイサービスに電話をして会話していただくことがあります。又、手紙のやり取りができるように支援しています。	地元出身の利用者が6割以上な為、家族の面会がほぼ毎日あり、馴染みの店へも連れて行っている。お墓参りや家族旅行など家族による支援が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	度々トラブルはありますが、入居者同士の関係性が良好であるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去となった方のお見舞いや、家族様からの問い合わせには誠実に答えるように努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分ではないが、希望、意向に添えるように努めています。	利用者の希望や意向を聞き、行きたいと思うところへ連れて行ったり、約束したことを守ることに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、十分な情報収集を行うように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態を観察するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での話し合いや、家族様の意見も反映させた介護計画の作成に努めています。	本人や家族の意見や要望等の情報収集を行い、ユニット会議で話し合い、職員間で情報共有し、計画作成担当者がまとめて本人の現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや記録で情報を共有、ユニット会議などで意見を出し合い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を行うように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園等への散歩、近隣の店舗への買い物など地域資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の大谷地病院からの往診を、スムーズに受けられるように支援しています。	以前からの専門医等のかかりつけ医は、家族が同行して受診しているが、都合の悪い時には職員が同行している。協力医療機関は精神科及び内科が各月1回の往診で、看護師が常勤の24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報を共有して、適切な受診(往診含む)を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の大谷地病院をはじめ、他の医療機関とも情報交換に努め、連絡を密にとるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化した際の指針について十分に説明して文書を交わしています。	重度化や終末期については、入居契約時に事業所の対応方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、医療連携で24体制の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に実習を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣の同法人のカペラ西岡との協力体制を築いています。又、年2回の避難訓練を必ず行うこととしています。	災害対策は、消防署の指導の下、マニュアルを整備して、隣接する同法人の住宅型有料老人ホームの協力により年2回定期的に火災の避難訓練を実施している。	火災の避難訓練を定期的に行っているが、備蓄や備品も整備し、近隣との通報システムも完備して、地震や停電などの自然災害にも対策を検討するよう期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議での注意や、都度その場で注意し合えるように話をしています。	人格の尊重とプライバシーの確保は、法人内で接遇研修を定期的に行っており、事業所内でも研修会を行って注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、入浴後の飲水の際、ポカリがいいか麦茶がいいかなど、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	つついホーム側の都合になってしまっていることがありますが、希望に添えるように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マネキュアだったり、好みの洋服選びなど、入居者様に合わせた支援を心がけています。又、爪切り等の保清にも気を付けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、入居者様と一緒にスタッフも必ず摂るようにしています。準備や片づけは、できる入居者様に行っていただくようにしています。嚥下体操、テーブル拭き、食器拭きなど行ってくれます。	料理は、外部委託だが暖かいものを提供している。利用者も配膳や片付け、テーブルや食器拭きなど手伝っている。行事食は、出張寿司やバーベキュー、お弁当、出張餅つきなど楽しみながら食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量のチェックを行っています。咀嚼、嚥下の状態に応じて、食事形態の見直しを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える入居者様は、訪問歯科に口腔内のチェックをしてもらい、介助で行う入居者様に関しては、訪問歯科のアドバイスに従い口腔ケアを行っています。毎食後行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行って、失禁を減らすように支援しています。又、布パンツへとオムツ外しに成功した入居者様もいます。	利用者個々の記録簿から排泄パターンを把握し、職員間で共有して、時間や表情を見ながら声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳やヨーグルトを提供したり、毎日の体操で運動の働き掛けを行うなど、予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ゆったりと気持ちの良い入浴を心がけるようにしています。拒否される際は、無理強いせず、曜日を変えたり、時間を変えるなどの対応をしています。	浴槽は、1階が特殊浴槽で、重度の利用者も入浴可能である。入浴は週2回で、曜日や時間など利用者の状況に合わせて個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れがみられた際は、臥床していただいたり、習慣で自ら居室で休まれる入居者様もいます。夜間に関しては、眠剤を服用されている方が多いです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、薬情を確認するように指導しています。又、2名で、日付、名前、顔を確認するなど、誤薬のないように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分とは言えませんが、畑を作って、実った野菜を収穫する喜びを一緒に味わったり、入居者様同士で将棋を指すなどの支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2泊3日の旅行や、お盆に自宅に外泊など家族様の協力があります。近隣の店舗への買い物は、希望の際に対応するようにしています。	敷地内の散歩や外気浴、近隣商店での買い物など日常的に支援している。外出行事は、ドライブがてらにお花見など行っている。お盆や旅行などは、家族と一緒に外出の支援をしている。	近隣の散歩や買い物など日常的に外出の支援をしているが、家族と一緒にの外出計画や利用者の行きたい場所への個別支援など利用者や家族の意見を聞きながら外出の支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所での預かりとしていますが、買い物支援の際は、財布を持っていただき、自身で会計をしていただく支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルはスタッフがしますが、電話がしたいとの訴えの際は都度対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り物で、季節感を味わっていただく工夫をしています。それぞれに決まった位置があり、皆さんの居心地の良い場所になっているのだと思います。	共用空間は、建物中央に位置し、採光や風通しもよく、広く明るく感じる。温度や湿度も管理しており、床暖で暖かい。1階にはベランダがあり、外には一坪の菜園がある。2階には、非常口があり、壁には行事の写真が掲示され楽しいひと時が感じられる。利用者はゆったりとしたリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と、気の合う入居者様が集まりゲームなどで楽しんでいます。居室へ戻って休まれる入居者様もいて、思い思いに過ごされていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵を貼ったり、写真を飾ったり、荷物をまとめたり、自由に居室を使用していただくことで、居心地よく過ごしていただいていると思います。	居室には、ベットとクローゼットが設置されており、一階と2階に各一部屋だけ洗面台が設置されている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活を送れるように、入居者様に意見を聞いたり、家族様に意見を聞いたりして工夫しています。		